

日下部吉信教授 略歴 主要著書・論文目録

略 歴

- 一九四六年四月二二日 京都府船井郡東本梅村字赤熊小字東垣内三四番地に生まれる
- 一九六五年三月 京都府立亀岡高等学校卒業
- 一九六五年四月 立命館大学文学部哲学科哲学専攻入学
- 一九六九年三月 同上卒業
- 一九六九年四月 立命館大学大学院文学研究科哲学専攻修士課程入学
- 一九七二年三月 同上修了
- 一九七二年四月 立命館大学大学院文学研究科西洋哲学専攻博士課程入学
- 一九七四年四月 京都学園大学非常勤講師（一九七九年まで）
- 一九七五年三月 立命館大学大学院文学研究科西洋哲学専攻博士課程単位取得退学
- 一九七五年四月 立命館大学非常勤講師（一九七九年三月まで）
- 一九七九年四月 立命館大学文学部助教授（一九八九年三月まで）
- 一九八七年九月 ケルン大学トマス研究所客員研究員（一九八八年八月まで）
- 一九八九年四月 立命館大学文学部教授
- 一九九〇年四月 種智院大学非常勤講師（一九九一年三月まで）
- 一九九六年九月 ケルン大学トマス研究所客員研究員（一九九七年三月まで）
- 二〇〇三年四月 立命館大学大学院部部长（二〇〇六年三月まで）
- 二〇〇六年九月 オックスフォード大学 オリエル・カレッジ客員研究員（二〇〇七年八月まで）
- 二〇〇九年四月 同志社大学文学研究科嘱託講師（現在に至る）
- 二〇一二年三月 立命館大学を定年退職

《主要著訳書および論文》

I 著 書

単 著

- 『西洋古代哲学史』（昭和堂、一九八一年九月）
『ギリシア哲学と主観性』（法政大学出版局、二〇〇五年九月）
『アリストテレス講義・6講』（晃洋書房、二〇一二年二月）
『プラトニズム講義・4講』（晃洋書房、二〇一二年二月）
『ヘレニズム哲学講義・3講』（晃洋書房、二〇一二年三月）
『初期ギリシア哲学講義・8講』（晃洋書房、二〇一二年三月）
共 著

- 『知性の探究』（法律文化社、一九七九年五月）
『哲学の問題と展開』（富士書店、一九八九年四月）
『西洋哲学史』（昭和堂、一九九四年四月）
『西洋哲学の再構築に向けて』（昭和堂、二〇〇〇年四月）
『21世紀のギリシア哲学』（理想社、二〇〇〇年八月）
『自然概念の哲学的変遷』（世界思想社、二〇〇三年一〇月）
『我が心深き底あり』（晃洋書房、二〇〇五年五月）
『西洋哲学史再構築試論』（昭和堂、二〇〇七年一〇月）

II 訳 書

単 訳

- A・トレンデレンブルク『カテゴリー論史』（松籟社、一九八五年四月）
K・ボルマン『バルメニデス―断片の研究―』（法政大学出版局、一九九二年三月）
『初期ギリシア自然哲学者断片集』（1）（筑摩書房、二〇〇〇年一月）

- 『初期ギリシア自然哲学者断片集』(2) (筑摩書房、二〇〇一年一月)
 『初期ギリシア自然哲学者断片集』(3) (筑摩書房、二〇〇一年七月)
 E・ハッセイ『プレソクラティクス』(法政大学出版局、二〇一〇四月)
 共訳

- 『ソクラテス以前哲学者断片集』第Ⅱ分冊 (岩波書店、一九九七年六月)
 『ソクラテス以前哲学者断片集』第Ⅲ分冊 (岩波書店、一九九七年一月)

Ⅲ 論 文

- 「カントからフイヒテへ」(上・下) (『立命館文学』第三四〇～三四二号、一九七三年一〇月、第三七三～三七四号、一九七六年八月)
 「カントにおける触発概念の問題性」(『関西哲学会紀要』第一四冊、一九七六年九月)
 「パルメニデスの存在思想」(Ⅰ) (Ⅱ) (『立命館文学』第三九六～三九七号、一九七八年六月、第三九八～三九九号、一九七八年八月)
 「ブレントノーに反対して」(Ⅰ) (Ⅱ) (『立命館文学』第五〇〇号～五〇一号、一九八七年三月、一九八七年五月)
 「パルメニデスにおける存在概念の問題性」(『立命館文学』第五二二号、一九九二年一月)
 「タレス」(『立命館文学』第五二九号、一九九三年三月)
 「ピュタゴラス」(『立命館経済』第四三卷・第五号、一九九四年一二月)
 「アナクシマン드로ス」(『立命館文学』第五四三号、一九九六年二月)
 「西田とギリシア哲学」(『立命館人間科学研究』第五号、二〇〇三年三月)
 「アリストテレスの実体論」(『立命館文学』第六〇三号、二〇〇八年二月)
 「ギリシア哲学と暴力―ピュタゴラス派をめぐって―」(『暴力と人間存在の関わりについての理論的および実証的研究』、二〇〇八年三月)

Ⅳ 書 評

- 「哲学者・梅原猛について」(梅原猛著『美と宗教の発見』ちくま学芸文庫、二〇〇二年一〇月、所収)
 書評「評伝・梅原猛―哀しみのパトス」(やすいゆたか氏同名著書への書評、京都新聞朝刊、二〇〇五年六月)
 書評「プラトンの描いたソクラテス」(『実存思想論集』XXIV、二〇〇九年七月)
 「哲学者・渡邊二郎について」(『渡邊二郎著作集』第四卷月報、筑摩書房、二〇一一年一〇月)

V 講演・口頭発表

- 「カントにおける触発概念の問題性」(関西哲学会第32回大会、於愛媛大学)
- 「ロゴスの哲学者ヘラクレイトス」(第6回西洋哲学史研究会、一九九六年三月、於関東学院大学)
- 「魔術師、錬金術師デモクリトス」(第8回西洋哲学史研究会、一九九七年三月、於立命館大学)
- 「ギリシア哲学と実存思想」(実存思想協会第15回大会、一九九九年六月、於専修大学)
- 「西田とギリシア哲学」(ライフヒストリー研究会、二〇〇二年一月、於京都白川院)
- 「デモクリトス」(統合学術国際研究会、二〇一〇年八月、於立命館大学)
- 「ギリシアの哲学者デモクリトス―統合学術的問の発生根拠を求めて―」(統合学術国際研究会シンポジウムでの講演、二〇一〇年一二月、於KKRホテル熱海)
- 「自然(ピュシス)と人間(主観性)、そして存在(Sein)」(統合学術国際研究会シンポジウム、二〇一一年一二月、於KKRホテル熱海)